

文化相對主義

資料

傷をつけて身体の熱を冷ます
(チャムス、ケニア)

チャムス

- ホームステッド
- 牧畜の生活:
 - ウシ、ヤギ、ヒツジ
- 主食:ウシのミルク
 - 生乳、ヨーグルト
- 近代的な医療機関は、30kmほど離れている。
- たいていの痛みや不調には自家治療による対処



地図

瀉血

- (1)カミソリなどで皮膚に傷をつけるだけの方法
- (2)傷をつけたうえで吸引器を使ってより多くの出血をうながす方法
- (3)傷をつけるために小型の弓矢をもちいる方法

ねんざ、打撲などによる腫れと痛み

- 「痛みのある、腫れたところを選べばよい」

- かかとの腱のあいだに二カ所と甲の腱のあいだに二カ所、小さな傷跡を持つ青年
- 「足首をひねって痛めたときに」瀉血

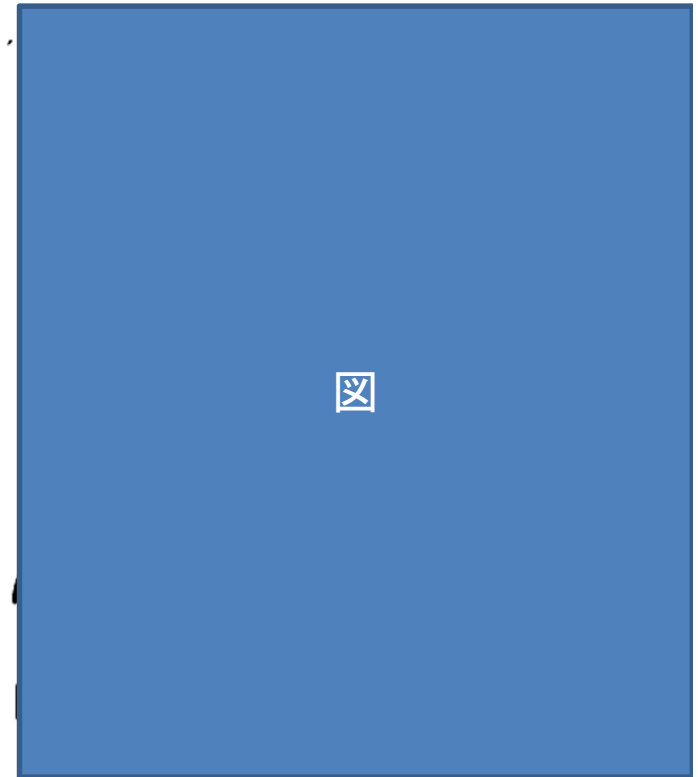


- 右膝にぐるりと円を描く傷跡を持つ老人
- 「膝蓋骨(しつがいこつ、お皿)がはずれて上へいってしまい(脱臼か?)、ひどく腫れたとき」、膝の周囲の晴れて柔らかくなっているところを瀉血



図

- 同じ老人
- 子供の頃「脾臓の病気」になった。「ルタシン(肋骨の下部)が腫れてその上が痛み、下腹も腫れ、さわるとかたい」状態になったとき、肋骨の下部に沿って2本のラインを引くように瀉血
- 「痛みの範囲が広く、腫れも大きかったので、血が十分に出るようにたくさんの傷をつけた」



「ンゴバタ」(吸い出し瀉血)(p.173)

- 浅い切り傷をつけたあとで、ヤギの角でつくった吸い出し器で血液を「吸い出す」
- 先端に小さな穴があいた円錐形のヤギの角。
- カミソリなどで傷をつけ、その上に角の底面部分を押しつけて、穴から中の空気を吸い出す。吸引力で角が肌にくっついたら、先端の穴を蜜蝋でふさぐ。
- 傷口から出血し、角に血が溜まって気圧が上がると角が落ちる。これを数回繰り返す。
- 最後に傷口に岩塩をすり込む。傷は3本で十分。



写真

写真 23 ヤギの角の吸いだし器



写真

瀉血の箇所(痛みや腫れのため)

- 背中の腫れと痛み 肩甲骨のあいだの背筋の上
- 腰の腫れと痛み 腰椎をはさんで左右2箇所
- 脇腹の痛み 肋骨に沿って乳房の根もと
- 脾臓の腫れと痛み 左脇腹の腫れているあたりを三カ所、左側の背筋
- ひどい頭痛 こめかみを三カ所

「ンゴロト」(弓矢式瀉血)

- 前のような瀉血で治らない激しい頭痛
- 小型の弓矢を用意し、矢じりに先を数ミリメートル残して布のテープをまく。
- 革ひもで患者の首を絞め、こめかみに血管が浮き上がってきたところを「弓矢でいる」
- 両方のこめかみにする
- 首の革ひもをとして、出血を弱める
- 血が止まるまで放置する。砂糖を傷口に塗り込むことも(止血作用があるという)
- 患者はぐったり。スープで栄養をとる。
- 危険であるため、年配男性の熟練者が施術
- 頭痛がするときは、こめかみのあたりで「血が飛び跳ねて」いる。余分な血を抜くと、血管に適量の血液が流れるようになり、頭痛は鎮まる。

- 打撲、ねんざ、脱臼による内出血、頭痛、筋肉痛、腹腔部の腫れやむくみ、脾臓の腫大
- 痛みや腫れの原因:「血が流れずに溜まっているため」「溜まった血がとろんとした状態に固まりかけている」
→溜まった血を出すことで痛みや腫れがなくなる。
- 岩塩には固まりかけた血を溶かして流れる状態にする効果がある。(出血量も増える)

チャムスについての資料

- 河合 香吏
- 東京外国語大学
- 東アフリカ、牧畜民研究



悲しみの首狩り(イロンゴット)

地图

イロンゴットの人びとの写真

イロンゴットの首狩りの写真

女性性器切除／女子割礼

タイプI

クリトリスの一部もしくは全体及びクリトリス包皮の切除、あるいはクリトリス包皮の切除(クリトリス切除術)

タイプII

クリトリスの一部もしくは全体及び小陰唇の切除。大陰唇の切除をともなう場合もある(切除術)

タイプIII

小陰唇および大陰唇、あるいは小陰唇か大陰唇のみを切除・接合することによって覆いが作られ膣口を狭める。クリトリスの切除をともなう場合もある(性器縫合)

タイプIV

その他、医学的治療以外の目的で女性性器を傷つける施術。たとえば、突き刺す、極小の穴を開ける、切り込む、削る、焼灼といった行為

FGM/FCの図解

FGM/FCのタイプ

FEMALE GENITAL MUTILATION (FGM) WHERE DOES IT HAPPEN?

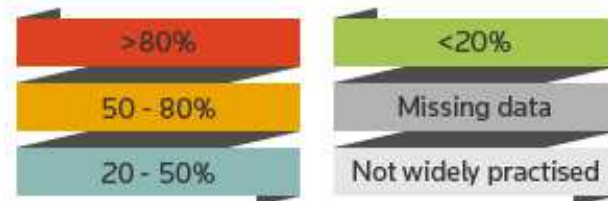


FGM is practised in 28 African countries and parts of the Middle East and Asia. It is also found in immigrant communities worldwide.

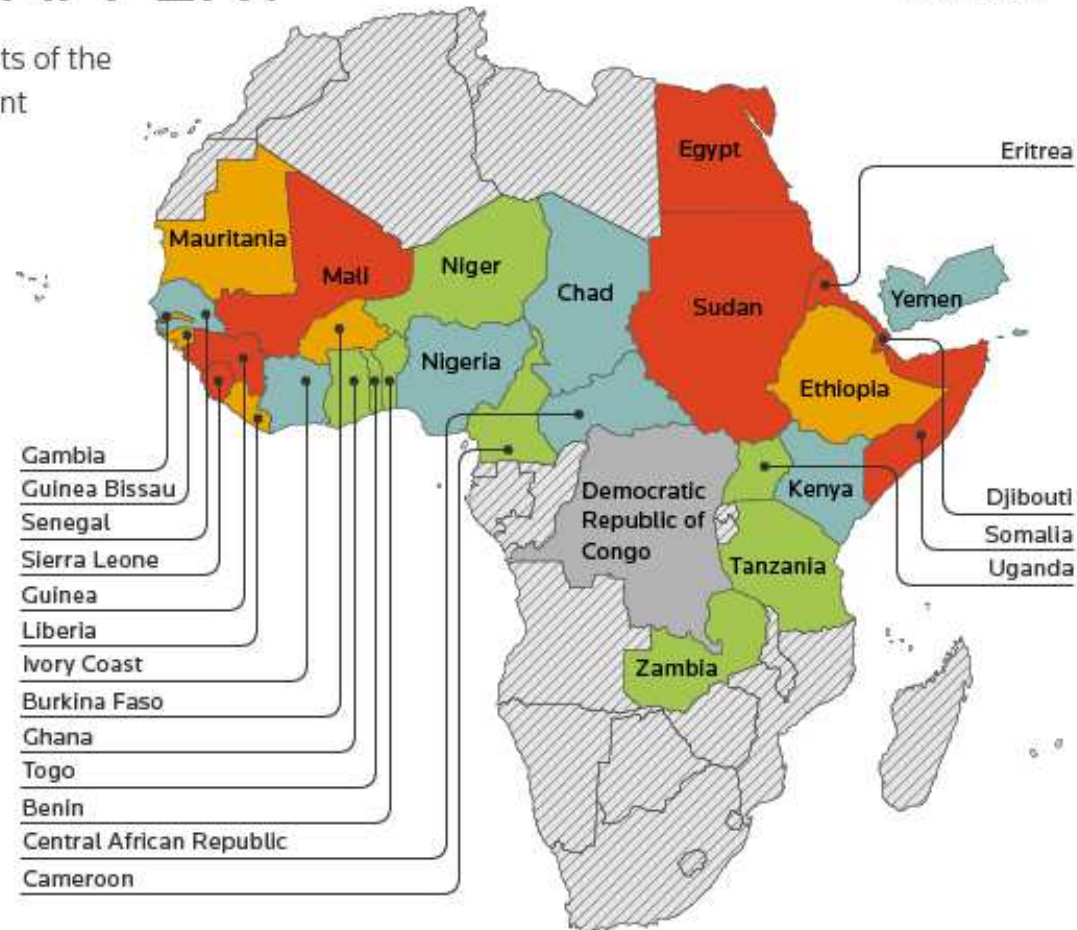
An estimated 100 to 140 million girls and women have been subjected to FGM. In Africa, around 3 million girls are thought to undergo FGM every year.

FGM is often a prerequisite for marriage, but it can cause life-long physical and psychological problems.

FGM PREVALENCE FOR WOMEN AGED 15-49



Source: UNICEF and Population Reference Bureau



2012 Thomson Reuters Foundation

アフリカにおけるFGMの分布と比率

<http://www.trust.org/trustlaw/news/special-coverage/fgm/>

付記3：女性性器切除が行われている国

以下の国々において、タイプI、II、III、および“切り込みを入れる”タイプIVのFGMが伝統的慣習として行われていることが報告されている。実施率は国勢調査より算出されている〔Macro発

行DHS（人口保健調査）もしくはUNICEF発行MICS（複数指標クラスター調査）〕。ただし、リベリアについては地域および地方による複数の調査から算定（Yoder and Khan, 2007）。

その他以下のような一部の国においては、調査によってFGMが確認されているが、国全体の推定実施率は算出されていない。

- ・ アラブ首長国連邦 (Kvello and Sayed, 2002)
- ・ イスラエル (Asali et al., 1995)
- ・ イラク (Strobel and Van der Osten-Sacken, 2006)
- ・ インド (Ghadially, 1992)
- ・ インドネシア (Budiharsana, 2004)
- ・ マレーシア (Isa et al., 1999)

また、オマーン、コロンビア、コンゴ民主共和国、スリランカ、ペルーといった国においてもFGMの事例が報告されている。国内の移民社会のみがFGMを行っている国はこれらの事例には含まれていない。

国名	年	15~49歳女性におけるFGM推定実施率 (%)
イエメン	1997	22.6
ウガンダ	2006	0.6
エジプト	2005	95.8
エチオピア	2005	74.3
エリトリア	2002	88.7
ガーナ	2005	3.8
カメルーン	2004	1.4
ガンビア	2005	78.3
ギニア	2005	95.6
ギニアビサウ	2005	44.5
ケニア	2003	32.2
コートジボワール	2005	41.7
シエラレオネ	2005	94.0
ジブチ	2006	93.1
スーダン (北部) (全調査人口の約8割)	2000	90.0
セネガル	2005	28.2
ソマリア	2005	97.9
タンザニア連合共和国	2004	14.6
チャド	2004	44.9
中央アフリカ共和国	2005	25.7
トーゴ	2005	5.8
ナイジェリア	2003	19.0
ニジェール	2006	2.2
ブルキナファソ	2005	72.5
ベナン	2001	16.8
マリ	2001	91.6
モーリタニア	2001	71.3
リベリア		45.0

http://whqlibdoc.who.int/publications/2010/9784998064329_jpn.pdf



写真

ジンバブエでの光景

<http://faithdziruni.wordpress.com/2012/07/23/female-genital-mutilation-fgm/>



写真

イギリス

<http://bulletinoftheoppressionofwomen.com/2012/07/25/female-genital-mutilation-fgm-a-problem-in-uk-not-just-islamic-countries/>

〔一九七六年〕六月一二日、いつも経験している過酷な炎暑の一日を予想させる日。私は二人の少女の割礼を目撃するはずだ。〔友人の〕ザイナブが日の出のところに迎えに来る。どうやら遅れたようだ。わたしたちは村の奥にあるホーシユ（塀で囲まれた中庭）に向けて走る。そこに着くと、すでに地元の産婆であるマリラムが、姉妹のうち最初の一人の割礼をすませ、二人目の手術の準備にとりかかっていた。女性の群れ——その多くは祖母世代の者（ハボーバト）である——は部屋の外に集まっており、男性はまったく見当たらない。一ダースほどの手が私を前の方に押し出した。「あなたは近くで見なければならぬ。これは大事なものだから」とザイナブは言う。〔手術を目にすることに〕あまり気が進まないのだ、ということを告白する勇氣は私にはない。少女はアンガリーブ（昔ながらの木製ベッド）の上に横たわっており、身内の成人女性数人がその身体を支えている。そのうちの二人は、彼女の両足を広げたまま押えている。それから彼女は、地元の麻酔薬の注射を打たれる。それからのちよつとした沈黙の間に、マリラムは、私の目には子供用の紙鋏と思えるものを取り出し、少女の陰核と小陰唇とを手早く切除する。彼女が私に言うには、これがラフマ・ジェワ（内側の肉）とのこと。驚いたことに、患部からはそれほど出血していない。それから彼女は産婆道具箱から手術用の針を

取り出して糸を通し、小さな開口部分を陰門部に残して大陰唇を縫合する。消毒剤をたっぷり使って手術は終わる。／幼い娘は痛みよりもショックを感じているようだ。結局麻酔が効いているのだろう。女性たちは短く喜びの叫び（ザガルダ）をあげ、私たちはお茶を飲むため中庭に移動する。私たちが待っている間に、「割礼を受けた」姉妹は、傷が治る時期に〔超自然的な〕害悪から身を守るための儀礼的な装身具（シルティグ）を受け取る。



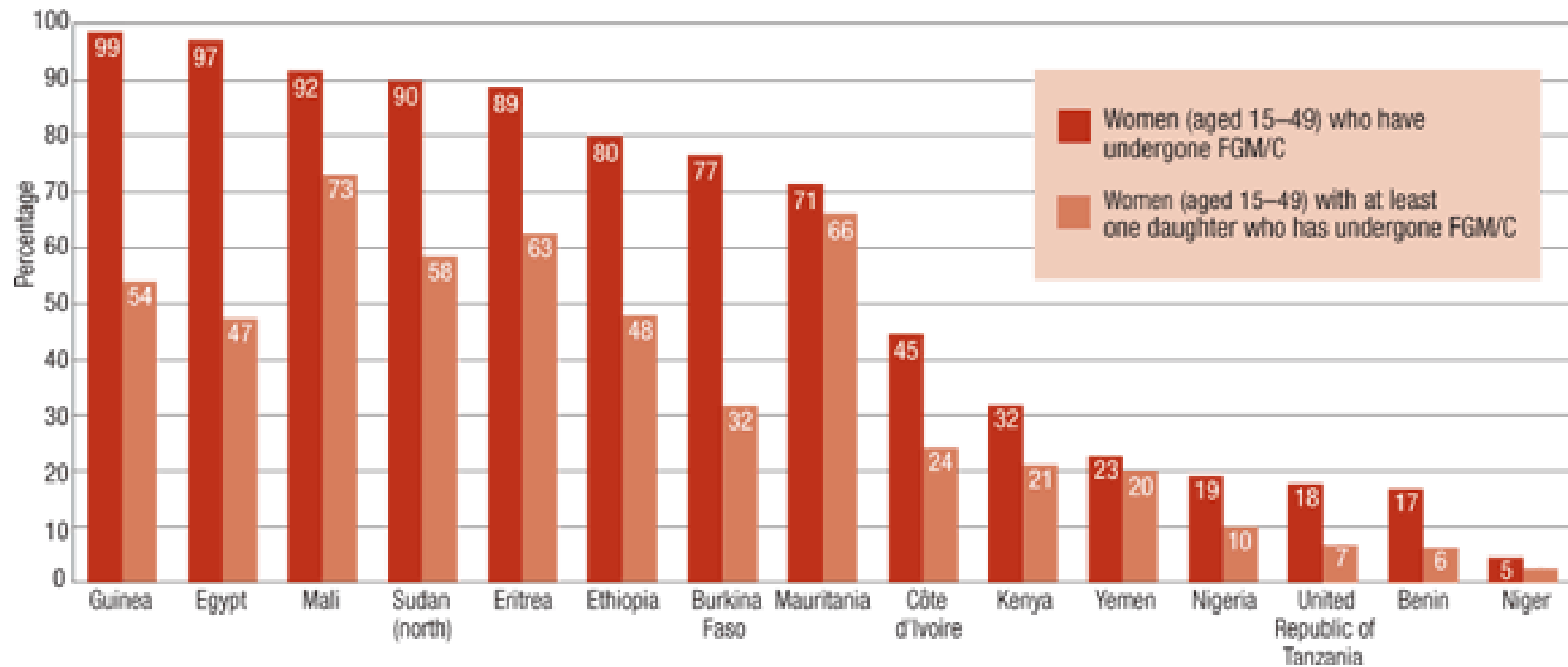
写真

ワリス・ディリー



写真

映画「デザートフラワー」

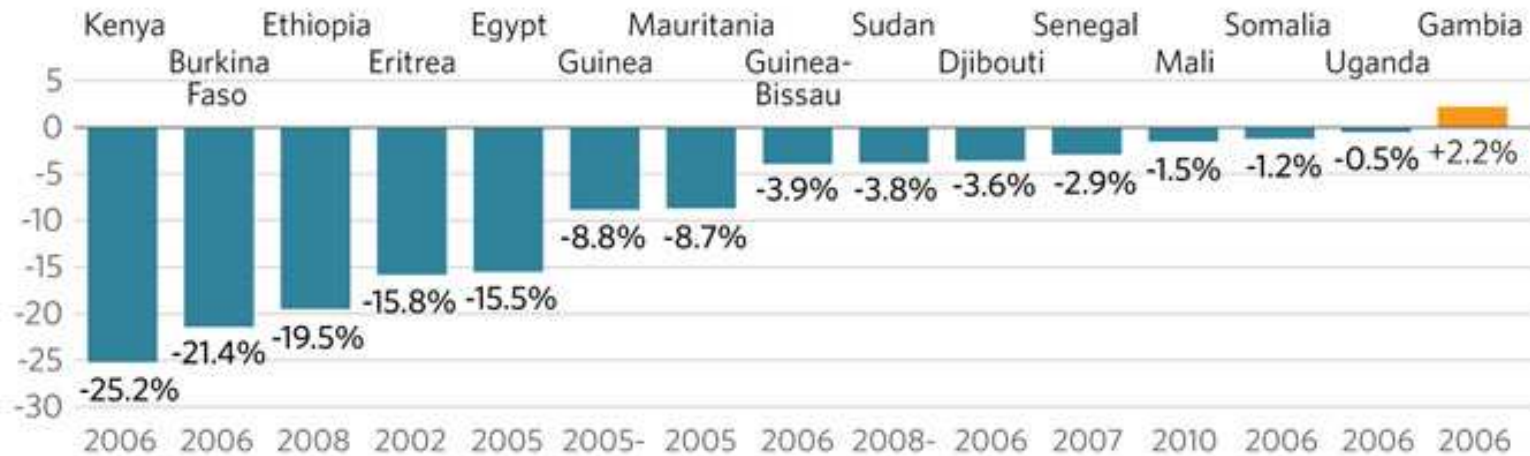


Prevalence of FGM in women and daughters

http://www.who.int/reproductivehealth/topics/fgm/fgm_trends/en/index.html

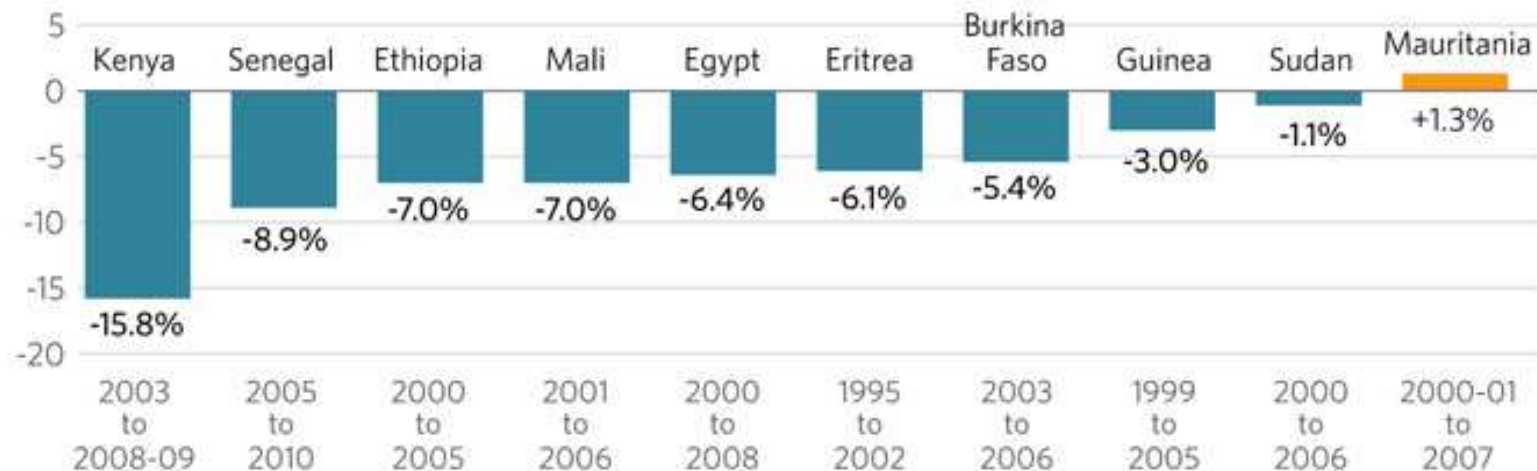
Younger women have lower rates than older women

Percentage point difference in prevalence rates in women aged 15-19 compared to women aged 40-44



Rates dropping: FGM/C prevalence percentage change

Joint Programme countries where comparison is available, women aged 15-49





写真

An anti-FGM protest in London, England.

Credit: Alex Little on Flickr, under Creative Commons (CC BY-NC-SA 2.0)

<http://womensenews.org/story/cheers-and-jeers/120427/court-convicts-charles-taylor-fgm-prevalent-in-uk#.UP9OvvJCdHg>



女性性器切除の廃絶を求める 国連10機関共同声明

OHCHR UNAIDS UNDP UNECA UNESCO
UNFPA UNHCR UNICEF UNIFEM WHO

FGM廃絶を支援する女たちの会

Women's Action Against FGM, Japan (WAAF)

原書発行元：WHO(世界保健機関)

目次

女性性器切除の廃絶を求めて— 緊急要請	3
なぜ今新たな声明を出すのか	5
女性性器切除とは何か、なぜ今も続いているのか	6
女性性器切除は人権を侵害している	10
女性性器切除の有害性	12
女性性器切除の根絶に向けた行動	14
結論	22
付記1：“FGM”という名称について	23
付記2：女性性器切除の分類	24
付記3：女性性器切除が行われている国	30
付記4：国際的・地域的人権条約および合意文書	32
付記5：女性性器切除がもたらす健康被害	33
参考文献	36

http://whqlibdoc.who.int/publications/2010/9784998064329_jpn.pdf

女性性器切除の廃絶を求めて—緊急要請

“女性性器切除” (“female genital mutilation”あるいは“female genital cutting” “female genital mutilation/cutting”とも呼ばれる)とは、女性外性器の一部もしくは全部の切除、あるいは医学的治療以外の理由で女性性器を傷つける行為を指す。現在世界で1億~1億4千万人の少女・女性がこうした切除を受けており、毎年300万人の少女がその危険にさらされていると推測される。女性性器切除 (FGM) は世界各地で行われていることが報告されているが、最も多く行われているのはアフリカの西部、東部、北東部、さらにアジアや中東の一部、北アメリカやヨーロッパにおけるアフリカ移民社会の一部である。

FGMには健康上の利点などない。それどころか、多くの面で少女や女性にとって有害であることが知られている。第一に、苦痛とトラウマをもたらす。健康で正常な生殖組織が切り取られる、あるいは傷つけられることによって、身体の正常な機能が妨げられ、切除直後さらに長期的にも有害な結果をもたらす。たとえば、新生児死亡率はFGMを受けていない女性から生まれる赤ん坊と比べて、FGMを受けた女性から生まれる赤ん坊のほうが高い。

FGMを行っている地域では、さまざまな社会的、宗教的理由を挙げてこの慣習を続けている。人権という観点からすると、FGMは根深い男女間の不平等の表れであり、究極の女性差別である。また、FGMはたいていの場合未成年に施されることから、子どもの人権侵害にもあたる。さらには、健康や安全、身体的完全性に対する権利、拷問および残虐で非人道的または屈辱的な取り扱いを受けない権利を侵害するものであり、切除が原因で死亡する場合には生命権の侵害になる。

数十年におよぶ地域社会や各国政府、各国および国際組織による活動の結果、一部の地域においてはFGM実施率が低下してきている。住民による集団的意思決定の方法を用いた地域では、FGMの廃絶に成功している。確かに、実施地域の住民が自らFGMをやめると決定すれば、この慣習はきわめて早く根絶されるだろう。国によってはFGMを禁止する法律を制定しており、文化面に配慮した教育や一般の人々の意識改革を促す活動を補うことによって、実施率が減少している。各国および国際組織はFGM廃絶を訴え、FGMの有害な影響を裏付けるデータを作成する上で中心的な役割を担っている。「ジェンダー平等に関するアフリカ連合宣言」、およびアフリカ連合がアフリカ憲章に向けて作成した議定書の中のアフリカにおける女性の権利に関する人権と人民の権利もまた、性の平等の促進とFGM廃絶に大きく寄与している。

しかしある程度の成果が上がっている一方で、全体的なFGM実施率の低下ペースは遅い。それゆえ、FGM廃絶の取り組みをさらに強化することが世界的な急務であり、それが多項目にわたるミレニアム開発目標の達成にとっても必要不可欠である。

なぜ今新たな声明を出すのか

1997年、世界保健機関 (WHO)、国連児童基金 (UNICEF)、国連人口基金 (UNFPA) は「女性性器切除に関する共同声明文」を発行し、この慣習が健康および人権にもたらす影響について説き、その廃絶支援を宣言した。

それ以降、対策を実行するための調査や地域との協力を通して、またキャンペーンを通して、さらに法律の制定によって、FGM廃絶に向けたさまざまな努力が続けられてきた。国際的なレベルでも地域レベルでもFGM廃絶の動きが進んできた。現在ではさらに多くの国連機関がこの問題に取り組むようになり、人権条約監視機関や国際的な決議によってFGMは非難されている。多くの国で法的枠組みが改善され、FGMを廃絶するための政治的支援も拡大している。最も大きな進展としては、一部の国でFGM実施率が低下し、実施地域においてFGM廃絶を支持すると宣言する女性、男性が増えていることが挙げられる。

こうした明るい兆候に反して、多くの地域でいまだに実施率が高く、今後一世代のうちにFGMを廃絶しようとするならば、取り組みを強化、拡大、改善していくことが急務となっている。この目標達成のためには、より多くの資金・人材と、連携や協力が欠かせない。

今回の新たな共同声明は前回の3機関共同声明に比べ、より多くの国連機関が加わり、FGM廃絶の訴えを支援している。新たな実証や過去10年に得られた経験に基づきまとめられており、人権や法の観点からも広く問題をとらえ、最新のFGM実施率も提示している。FGMが続いている理由に関する調査結果をまとめ、これは実施地域の人々による一致団結した取り組みによってのみ変えることができる社会慣習である

と強調している。また、女性、少女、新生児に与える健康被害に関する最近の調査結果も紹介している。さらに、多くの国における対策から得られた経験を生かし、FGMを完全になくすため、そしてFGMの後遺症に苦しむ女性たちをケアするために何が必要なかを解説している。

「女性性器切除 (FGM)」という用語について

この声明文では、1997年の共同声明文と同様に「女性性器切除 (Female Genital Mutilation = FGM)」という名称が使われている。「mutilation (切除)」という言葉がこの行為の深刻さを明確に示しているのである。一部の国連機関では、実施地域に対する批判や偏見のない用語を使用することに重点を置き、「cutting (切り込み)」という言葉を付け加え「女性性器切除/切り込み (female genital mutilation/cutting)」を使っている。「切除」も「切り込み」もこの慣習が少女・女性に対する人権侵害であるという事実を訴えている。用語に関する詳細な解説は付記1を参照のこと。